

養護教諭養成課程における保健科教育法授業の工夫

田中 清子* 渡辺 千津子* 石田 敦子**

* 愛知みずほ大学人間科学部心身健康科

** 東海学園大学教育学部

Kiyoko Tanaka ・ Chizuko Watanabe ・ Atsuko Ishida

Department of Human Sciences, Aichi Mizuho College

キーワード：養護教諭養成課程，保健科教育法，

1 はじめに

平成 10 年の免許法の一部改正により養護教諭免許を有し 3 年以上の勤務経験のある現職養護教諭は、校長の許可が得られれば、当分の間その勤務する学校において保健の教科の領域に係る事項の教授を担当する教諭又は講師となることができることとなった。(新法附則第一八項及び新規則附則第三三項関係)

平成 18 年度の日本学校保健会が実施した保健室利用状況に関する調査報告書¹によると、養護教諭の教科としての保健教育への参画（兼職発令およびティームティーチング）が有りの学校の割合は、小学校で 51.5%，中学校で 17.7%，高等学校で 4.4%であり、専門的な知識や技能を持つ養護教諭の教科としての保健教育へ参画している実態が報告されている。山田ら²は、小学校教員志望者と養護教諭志望者に対する調査で小学校教員志望者は、保健の授業の実施に対して助言を得たいと考えている一方で、養護教諭志望者は、授業の実施について自信がないものが多く、養護教諭志望者の授業力の向上や保健学習の実施に対する自信を持つことで、よりよい協力関係が築けると述べている。そのためには、養護教諭志望者の授業経験を得ることや授業を実施するための知識を得ることが有効であると述べている。

養護教諭が教科の保健を担うことは、当該学校全体の児童生徒の健康実態を把握しているとか、保健の専門分野について学校現場の詳しい知識があるなどの特質から児童生徒にとってより深い学びの機会が期待できる。今後、保健科教育における養護教諭の役割は、重要なものとなってくる可能性が大きい。

養護教諭養成課程においては、養護教諭の免許状と共に保健体育科の保健免許状の取得が可能な大学が多くある。本学でも養護教諭養成課程における保健科教育法の講義をⅠ、ⅡとⅢ、Ⅳを 2 名の教員が分担して指導している。

本研究では、2017 年度に実施した保健科教育法ⅠⅡ

の授業について、評価方法や内容について分析検討を加え、今後の講義内容の充実のための基礎資料を得たいと考えた。

2 研究の対象と方法

2017 年度に実施した保健科教育法ⅠⅡの授業を受講し、承諾を得られた学生 19 人の学修ノートや相互評価シート、自己評価シートなどの記述内容や評価方法について分析検討を加えた。

3 保健科教育法Ⅰ、Ⅱの指導内容と評価の方法

(1) シラバス

保健科教育法ⅠおよびⅡのシラバスは、資料 1 のようである。

(2) 講義で使用した教科書や資料

ア 教科書 参考書

保健科教育法ⅠⅡでは、小・中・高等学校の学習指導要領解説保健体育編（以上文部科学省）、小、中高等学校の教科書、家田重晴著「保健科教育 改訂 3 版」を使用した。「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き、「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き、「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引き（文部科学省）を参考書として使用した。また、講義によっては、資料プリントなどを用意した。

イ 講義の評価内容

保健科教育法Ⅰでは、定期試験（筆記試験）と講義に関する各種レポート、グループによる模擬授業の立案、検討、発表（指導案、指導内容、指導方法など）、相互評価シート「模擬授業の発表を聞いて」の提出をさせ評価を実施した。

保健科教育法Ⅱでは、毎週の講義に関する学修レポートの提出、1 人 1 単元の指導案の立案検討発表（指導案、指導内容、指導方法など）とともに各回において相互評価シート「模擬授業の発表を聞いて」を提出させた。また、16 週目には、修正した最終指導案の提出、実技小テストを実施した。

(3) 各資料の内容と使用方法

資料 1 保健科教育法ⅠⅡシラバス要約

保健科教育法Ⅰ		保健科教育法Ⅱ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健科教育」の担当教員の役割と職務内容を押さえながら、ヘルスプロモーションの理念をもとにした「保健科教育」の教育内容及び指導方法などの基本的な能力を身に付ける ・「保健科教育」の系統性を考慮し、小学校体育(保健領域)の保健内容をグループで検討して指導案を作成し、発表する機会を設けることにより実践的な学びをする。 	授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の保健科教育の意義・目標・内容・方法・評価について、学習指導要領や教科書に記載されている内容を中心に分析検討し、高等学校で求められる保健の学力について、検討する。 ・学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。 ・学修内容についてレポートをまとめて提出する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健科教育」の目標・内容等を学習指導要領に基づいて理解し、指導計画や指導方法を説明できる。 ・発問に対して発表したり、自分なりの考えをレポートにまとめることができる。 ・仲間の意見に関心をもちながら自分なりの意見を持ち、模擬授業ができる。 	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の作成方法や作成する意義・目標・内容を理解できる。 ・模擬授業を指導案に沿って実践できる。他の人の模擬授業に対し関心を持って参加できる。 ・課題を理解しレポートにまとめることができる。
学修計画		学修計画	
<ul style="list-style-type: none"> <第1週>オリエンテーション(ねらい、内容、方法、評価の説明)、今後の教育における基礎知識について説明 <第2週>伝統的な教授技術、保健教育の役割と歴史 <第3週>学習指導要領の基本的な考え方と保健教育 <第4週>教材研究の工夫 <第5週>保健教育の方法、授業の評価と研究 <第6週>分野別の教育内容の要点及び学習目標の捉え方 <第7週>授業レイアウトの作成 <第8週>保健科の学習指導案の作成 <第9週>指導案に基づく模擬授業の発表と検討(Aグループ) <第10週>指導案に基づく模擬授業の発表と検討(Bグループ) <第11週>指導案に基づく模擬授業の発表と検討(Cグループ) <第12週>指導案に基づく模擬授業の発表と検討(Dグループ) <第13週>指導案に基づく模擬授業の発表と検討(Eグループ) <第14週>修正した指導案に基づく模擬授業の発表と検討 <第15週>修正した模擬授業の指導案の検討とまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> <第1週>オリエンテーション(ねらい、内容、方法、評価の説明) ・講義の内容と目標、進め方や準備について説明 <第2週>小学校・中学校・高校における保健科教育の系統性と目標の確認 <第3週>学習指導要領とその解説(高校で求められる保健の学力) <第4週>学習指導要領とその解説(高校で求められる保健の学力)の読み取り <第5週>授業展開の検討(指導案、教材、板書計画) <第6週>第1グループの模擬授業の発表(現代社会と健康)と検討 <第7週>第2グループの模擬授業の発表(現代社会と健康)と検討 <第8週>第3グループの模擬授業の発表(現代社会と健康)と検討 <第9週>第4グループの模擬授業の発表(現代社会と健康)と検討 <第10週>第5グループの模擬授業の発表(生涯を通じる健康)と検討 <第11週>第6グループの模擬授業の発表(生涯を通じる健康)と検討 <第12週>第7グループの模擬授業の発表(社会生活と健康)と検討 <第13週>第8グループの模擬授業の発表(社会生活と健康)と検討 <第14週>第9グループの模擬授業の発表(社会生活と健康)と検討 <第15週>模擬授業の指導案を修正、小テストの実施 	

ア 学修レポート

保健科教育法Ⅰでは、模擬授業を実施した週以外の講義について内容の復習と理解度の確認をするために自由記述や穴埋め記述のレポートを作成させて評価し次回講義時に返却した。

山田らは、²保健科教育法の実践の中で学習内容を記述し自己評価させる講義ノートを利用している。石田らも養護概説の授業で学修ノートを活用している。³

単発の講義レポートは、学生にとって記述内容の正誤やスポットがあてられた部分中心に関心が集まり、授業内容全体についての印象が薄くなる傾向があった。

そこで、山田、石田らが使用した講義ノートを²³参考にして学修レポートを作成した。授業内容の要点を自分の言葉で記入したり、特記事項として重要なポイントを書き出させたり、学修内容に関して感じたことや自分の考えを毎回書かせる様式にした。これにより講義内容全体について関心を持たせたり、要点にまとめさせたり、講義内容について自分の考えを持つ練習

をさせたりしたいと考えた。(資料2)

学習内容に関する考えや感想と学修に関する自己評価(積極的に学修に参加できた、学修内容が理解できた)を5段階で記述させた。教員の評価としては、①学修内容の理解、②文字の読みやすさ、③学修内容をとらえて自分の考えを記述しているかどうかについて6段階で評価しそれをもとに総合評価を行った。レポートは、各学生へ次回返却しその後の資料とさせた。

また、山田ら²は、講義態度や理解、ノートの評価も自己評価させたが、教員が学修レポートの評価を行う形にし、記入内容の点検、確認、賞賛のメモなどを記入して学生へ返却した。

イ 相互評価シート「模擬授業の発表を聞いて」

模擬授業は、保健科教育法Ⅰでは、2人1グループで指導単元を決め、指導案の立案検討提出をさせた。1グループ30分の模擬授業、質疑応答5分として実施した。各回とも、グループで2人が場面を分担して授業を実施した。保健科教育法Ⅱでは、1人1単元で授

業案の立案検封印刷配布をし、各回1人20～35分で模擬授業を実施させた。各回ともに学生が児童生徒役を行い、先回の授業者が司会や計時記録係を行って授業を進めさせた。

各模擬授業では、指導案とワークシートの他、相互評価シート「模擬授業の発表を聞いて」を1授業について1枚配布し記入させた。(資料3) この用紙は、上

半分Aを授業者へ下半分Bを教員へ提出する形のものである。

記述内容としては、Aの発表者用の用紙には、模擬授業を子ども役兼観察者としての観点から、指導案や授業内容の良かったところ、よくするためのアドバイスや感想などをポジティブな表現で記入させ該当講義

資料2 模擬授業「家族計画の意義と避妊法」「加齢と健康」の学修レポート

科目名	保健科教育法Ⅱ	授業日	12月12日	学籍番号		
学修レポート		氏名	○ ○ ○ ○			
本日のテーマ 「家族計画の意義と避妊法」「加齢と健康」						
キーワード	家族計画 避妊法 加齢					
学 修 内 容			特 記 事 項			
○ 家族計画と人工妊娠中絶（家族計画の意義と避妊法） <ul style="list-style-type: none"> 今、将来の自分と妊娠について <ul style="list-style-type: none"> 今、現在と将来での各自の希望考えを述べる。 今、将来の自分と妊娠について避妊法の説明 コンドームと低用量ピルについてのイメージ <ul style="list-style-type: none"> グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> コンドームや低用量ピルについての意見をもとにメリット・デメリットなどの説明 			<ul style="list-style-type: none"> 家族計画 避妊法 <ul style="list-style-type: none"> コンドーム②～18% 低用量ピル③0.3～9% 避妊法選択の視点 <ul style="list-style-type: none"> 避妊効果、安全性、容易さ 継続可能か、価格、女性の意思 パートナーと話し合う。 加齢・老化 <ul style="list-style-type: none"> (アンチ)エイジング 8020運動 骨粗鬆症ーカルシウム ビタミンD！リン 運動 健康診断 かかりつけ医 生きがい 			
○ 加齢と健康 <ul style="list-style-type: none"> 加齢と老化の違いの説明 老化の見た目の変化と機能の変化ー発表 老化の見た目の変化と機能の変化ー発表 加齢によって洗練される能力について 中高年期の病気・ケガの予防について <ul style="list-style-type: none"> 図2 加齢とともに変化する体力とトレーニングの関係 骨粗鬆症についてーワークシート 健康診断などによる自己管理 はりのある生活について <ul style="list-style-type: none"> 生きがいを持つことの重要性 私たちができる高齢者の健康づくりや生きがいの支えになる行動とは 						
学修内容に関して感じたこと(感想, 考え)						
<p>Mさんは、初めの導入部分で今の自分と未来の自分について生徒に考えさせ、それぞれの時でなぜ自分はそのように考えるのかを聞くという学習活動が、生徒にまず関心を与え、それと共に自分の今現在の意思と将来について考えさせるきっかけとなったり、考えを見つめさせたりする活動であり、人それぞれであることを学ぶことにもつながるとも効果的な活動であると感じた。</p> <p>一方、全体的に女子生徒が主体になりやすかったり、男女混合での授業となると、どちらの視点にもうまく合わせた授業づくりをすることが必要ではないかと感じた。</p> <p>Yさんは、ワークシートの全体のバランスがとてもよく、きれいにわかりやすくまとめられていて、見やすかった。また、見た目と機能の変化では、男の子のイラスト教材を用いて視覚的に説明していたことも、とても斬新で面白く、よい説明方法だと思った。話し方もとても落ち着いた声でとても聞きやすく養護教諭らしいと思った。</p>						
自己評価	◎ 積極的に学修に参加できた	(5)	4	3	2	1
	◎ 学修内容が理解できた	(5)	4	3	2	1
学修レポート評価 (教員記入)	☆本時の学修内容を理解しているか	A (A') B B' C C'	評 価		検 印	
	☆読みやすい文字で記入してあるか	A (A') B B' C C'	A B C		(印)	
	☆学修内容を捉えて自分の考えを書いているか	(A) A' B B' C C'	(A') B' C'			

資料3 模擬授業「欲求と適応規制」の単元の発表を聞いて(B用紙)

保健科教育法Ⅱ 模擬授業の発表を聞いて(B 田中提出用 評価対象)

氏名	○	○	○	○	学籍番号	
----	---	---	---	---	------	--

日付	今回の模擬授業で学んだことは何ですか？(授業の内容や指導案、発表の様子などから理由を明確にして書きましょう。)	評価 良いところに○をつける	
11月14日	声を大きくするというだけでなく、メリハリをつけて話すことで、	発表内容全体	○
	大切なワード、難しいワードの忘れずに聞き取ることができる。	指導案の書式原則	○
発表者名	もっと高校生相手であることを意識し、性への欲求も入れた踏み	目標は、明確か	
	込んだ内容にする。	発問の工夫	○
○ ○ ○ ○		教材の工夫	
		板書などの工夫	○
	(感想)	声の大きさや間	○
	楽しく明るい雰囲気が出ていてよい授業だったと思いました。	思考力、判断力	
	授業をやるときに、自分の不安感が出てはいけなかったので、笑顔	科学的な取り扱い	
	が大切だなと思いました。	養護教諭の特質	
		質問への回答	○

時間内に本人へ渡すようにさせた。Bの教員用には、模擬授業で学んだことや感想を記述させた。A、B共通の11の観点項目について良いものについてのみ○をつけさせた。

ウ 自己評価表

保健科教育法Ⅱの最終週に自己評価カードに記入をさせた。「学習内容を明確に伝えることができた」「模擬授業として積極的に授業を展開できた」「模擬授業の場が学び合いの場となった」「自分の課題について深めることができた。」について4段階で自己評価をさせ受講後の感想や意見を書かせた。

3 結果

ア 学修レポート

(1) 学生の記入状況

学修レポートの提出回数は、1人平均12.9回で延べ271枚であった。多くの学生は、記入欄全面にノートを作成し、ときには、A4用紙の裏面まで記入内容が及んでいた。資料2

(2) 自己評価と教員評価

学生の自己評価欄への記入の平均は、5段階評価で「積極的に参加」4.1「学修内容の理解」4.1であった。山田らの実践では、「内容の理解度」4.5であった。²

教員の評価の平均は、6段階評価で「学習内容の理解」4.5「読みやすい文字」4.5「自分の考えを書く」

4.8、総合評価は、4.6であった。

学生と教員の評価をそろえそれぞれ平均してみると学生の評価が83.5教員の評価が77.3となり学生の自己評価が高くなっている傾向があった。しかし、学生の自己評価順に教員の評価を並べてみると、表1のように自己評価が下位のグループでは、教員の評価が高く、学生の評価が上位のグループでは教員の評価が低い傾向がみられた。

イ 相互評価シート「模擬授業の発表を聞いて」

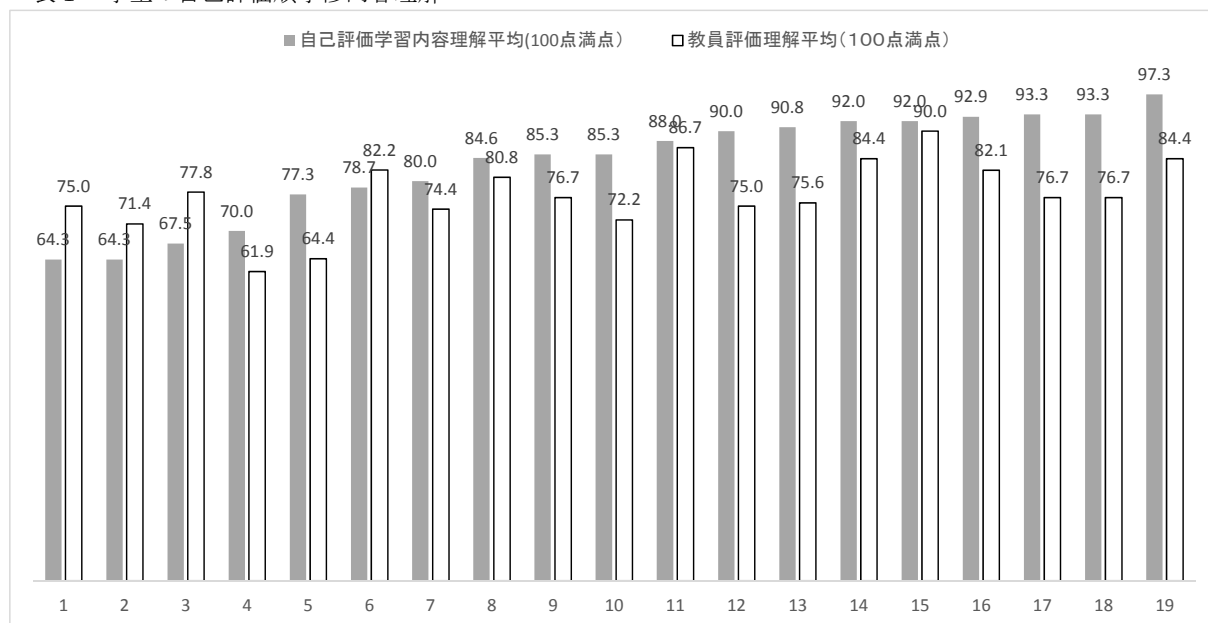
生徒役兼観察者からのアドバイスや指摘に対し「自分自身では気づけない点に気づき、強みにしたり、課題を見つけたりすることができた」とか「自分が受けてきた授業以外にこのようなやり方があることに気づくことができた」などの感想があった。

一方、AとBの用紙の内容が重複しているため、短時間で書く作業に注意を集中するため授業内容に集中できないなどの感想もあった。

ウ 自己評価カード

最終週に行った自己評価表カードの平均値は4段階評価で「自分の課題について深めることができた。」が最も多く3.5で「学習内容を明確に伝えることができた」「模擬授業の場が学び合いの場となった」「全体の授業に積極的に参加できた」が3.4、「模擬授業として積極的に授業を展開できた」3.3であった。

表1 学生の自己評価順学修内容理解



4 まとめ

本研究では、保健科教育法の講義の充実をめざし、内容を検討するとともに保健科教育法ⅠⅡによる評価資料を分析し、今後の充実した講義のための基礎資料を得ることにあつた。

分析の結果、以下の点が明らかになった。

- (1) 講義毎に作成させた学修レポートは、学生の自己評価に対し教員が毎回確認し評価することで細かな学びに寄り添い学修内容を充実させたり、下位の学生には励ましを、上位の学生には、更なる努力を促したりするのに役立った。
- (2) 模擬授業を実践する際、学生は、相互評価シートで肯定的なメッセージを受け取り、模擬授業に前向きに取り組もうとする感想や姿勢が見られた。
- (3) 生徒役の学生にとって模擬授業の終了時は、短時間で記述する作業が多くなる。授業内容に集中するためには、記入方法の改善を考える必要がある。
- (4) 自己評価表カードは、「自分の課題について深めることができた。」が最も多く、「模擬授業として積極的に授業を展開できた」が最も少なかった。今後は、模擬授業を積極的に展開するための手立てを考えていく必要があることが示唆された。

以上のことから、今後の保健科教育法ⅢⅣでは、ⅠⅡの問題点を克服する方策を講じて学生の授業の技術をさらに身に付けさせたり、教材研究を深めたりして学生が自信を持って模擬授業に臨むことができるよう講義内容を検討する必要性が示唆された。

参考文献

- 1) 日本学校保健会：保健室利用状況に関する調査報告書（平成18年度結果）、31-36、日本学校保健会、2008.
- 2) 山田浩平（2016）：養護教諭養成課程における保健科教育法の実践報告、東海学園大学教育研究紀要 第2号、156-161
- 3) 石田敦子（2016）：養護教諭としての力を育む「養護概説」の授業の工夫、東海学園大学教育研究紀要 第2号、10-17
- 4) 山田浩平（2014）：小学校教員志望者と養護教諭志望者の保健学習に対する意識の比較 愛知教育大学創造開発機構紀要 Vol.4 p.p.105-113